

令和4年度指定管理業務に関する事業報告書（デイ）

施設名 京都市本能老人デイサービスセンター

1 施設の管理運営

【開所日及びサービス提供時間】 年中無休 午前9時30分～午後4時45分 【利用定員】 35名 【送迎実施地域】 京都市中京区（下立売通以南・西大路通以東・河原町通以西）、 上京区（下立売通以南・河原町通以西）、下京区（花屋町通以北・西大路通以東・ 河原町通以西）、右京区（西大路通以東）
（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

2 事業実施内容

【レクリエーション】 ・感染予防のため、全体的なレクリエーションや歌を唄うといった比較的人気のある活動には制限があるが、いまや本能の人気レクリエーションの一つとなっている、クラフト教室は、今年度も好評であった。利用者の皆様も少しずつ新しい生活様式を取り入れたレクリエーションに慣れてこられており、楽しんでいただけるようになっている。もちろん、少しずつレクリエーションの幅も緩和しており、季節に応じた活動も再開することができており、利用者の皆様にも喜んでいただけている。 【運営日】 ・ご利用者のニーズに応え、日曜日、祝日、年末年始のサービス提供を行っている。 【介護技術・知識の向上】 ・全職員を対象に当施設で、権利擁護研修、自立を支援する介護技術や認知症、リスクマネジメントに関する研修など、多岐にわたる研修を計画的に実施している。 【ご家族との連携】 ・コロナ前までは、「ファミリー会」と称して、日頃の在宅介護の悩みや介護に関する勉強会などを定期的の実施していたが、令和4年度も再開することができなかった。その分、送迎時などの家族とのコミュニケーションを大切にし、その日にあった何気ないことでも伝えるようにするなど、顔の見える関係性を大切にしている。
（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容
（参考）自主事業内容

3 サービス提供状況

【職員体制】 施設長1名、総務・介護部長1名、通所介護係長1名、生活相談員3名（兼職）、看護師2名、介護職員13名、管理栄養士1名、機能訓練指導員2名（兼職）
（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

4 市内中小企業への発注に対する考え方

市内中小企業に事業を委託する場合は、以下の考え方に従って業者選定をしている。 委託への考え方 （1）業務内容が専門的な知識を必要とし、かつ施設内の職員では対応が困難な業務の場合。 （2）法人が専門的に行う業務ではないため、専門に行う業者のほうがより効率的に、かつ質の高いものを提供できると判断できる場合 （3）業務内容は簡易であるが、行う人材を集めることが容易でない場合、その業務を行える人材を集めることに特化した業者がある場合 また、備品購入等の発注については、市内の業者を優先して活用している。

5 施設の利用状況(施設の稼働率、利用者数、事業参加者数など)

(1) 延べ利用者数(実績値)

10,163 人

(2) 稼働率(実績値)

79.6 %

(3) 収支実績

ア 令和4年度収入状況(単位:円)

介護保険収入	103,161,158
利用料収入	10,480,846
委託料収入	
補助金収入	1,103,639
寄付金収入	116,380
雑収入	112,721
その他	7,799,626
収入計	122,774,370

イ 令和4年度支出状況(単位:円)

人件費	82,732,288
事業費	11,946,788
委託費	5,497,488
小額修繕費	773,157
その他	15,271,373
支出計	116,221,094

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

毎年ご利用者・ご家族へのアンケート調査を実施している。アンケート結果は集計後、部署会議で検討し、利用者・家族へ検討結果を書面でお知らせしている。日頃の様子は、送迎の際に口頭でお伝えするとともに、困りごとがないかなどもお聞きしている。お伺いしたことについては、申し送り時に報告している。その他、ご利用者ごとに連絡ノートを作成し、ご家族との日頃の情報交換を密に行う事で、ご利用者の満足度を把握するように努めている。

(2) 利用者満足度把握の結果

結果については、適宜、利用者及びご家族へ返答すると共に、ケア内容やケアプラン等に活かしている。また、アンケート結果については、施設ホームページに掲載している。

(3) 意見等への主な対応状況

申し出があった場合は、当該職員や入居者及び家族から聞き取りを行うなど、実態調査を実施し、一両日中に回答している。その内容や経過については、調査結果を代表者会議や各部署の会議で報告し、様々な職員が共有できるようにしている。これら入居者・家族のご意見を踏まえ、サービスの質の向上に向けて、法人・施設内研修の充実、法定基準以上の人員配置、居住環境の改善などに取り組んでいる。

7 その他特記事項

(1)

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、施設内外問わず、行事の中止や規模縮小などが行われてきたが、令和4年度からは少しずつ制限のない行事なども復活している。このような中、施設も地域の行事に参加するようになってきている。感染対策については、引き続き意識を高く持ちながら、コロナを正しく恐れ、共存していく機運になっている。令和5年度においては、地域の一員としての関わりにより拍車がかかけられるようになると確信している。

(2)

8 評価（指定管理者自己評価）

- (1) いかなる障害があろうとも尊厳のある暮らしを支援するために、徹底した倫理教育・研修を行うと共に、職員自身が自身のケアや対応を見直す機会が定期的に持てるような仕組み構築し、どの職員も、誰に対しても丁寧な言葉遣いに対応ができるようにすることで、指定管理施設に相応しい運営管理ができていると評価する。
- (2) 指定管理施設として、社会資源の有効活用を更に推進するため、新規入居者の速やかな入居支援や特養入院者が出た場合のショートステイ利用の促進を図っている。
- (3) 近隣住民や地域社会との関係性を重視し、日頃から顔の見える関係性の構築と維持に努めてきた。新型コロナウイルス感染症の影響は多分にあったものの、その程度のことで関係性が希薄になるようなものではなく、深い絆で地域住民の方とつながっていることが改めて実感できたことは、けがの功名である。
現在も変わらず声をかけてくださり、施設の入居者のことを地域の皆様が気にかけてくださっていたことに感謝するとともに、これまで取り組んできた、地域に根差した施設運営がしっかりと行き届いていたと評価できると考えている。コロナ感染症の感染力や感染症そのものの力は弱まったわけではないものの、2類から5類になることを一つの契機として、地域のまちづくりへの貢献が再びできるように取り組んでいきたい。